

# 同志社大学

## 2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年3月17日提出

所 属	職 名	氏 名
心理学部	教授	佐藤 豪
研 究 題 目	生活習慣の変容を阻害する潜在意識における価値観の検出と変容に関する研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究は、生活習慣の変容をめざして臨床心理学的なアプローチを行う中で、今まであまり明確にされてこなかった無意識下の価値観というものに焦点を当ててその内容を検討しようとするものである。</p> <p>今年度の研究として、関西医科大学健康科学センターとの共同研究により重度の肥満症患者についてエゴグラム、完全主義傾向の質問紙検査と面接による記録とを検討することによって生活習慣に影響する潜在意識における価値観の検討を行った。</p> <p>その結果、重度の肥満症患者は自分自身に対するセルフイメージが適切でなく、自尊感情が低下しながら、完全主義傾向が高いことが示された。また自分自身の状態を客観的に把握し、それに基づいて分析するという交流分析で言うところの「大人の自我状態」が低いために、セルフ・コントロールが、なかなか進められないことが明らかとなった。</p> <p>本研究の結果から、これらの状態が本人には必ずしも意識されているものではないことが示唆され、このことからすると、今後さらに研究を進める中で無意識下の価値観を明確にする方法論を確立してゆくことが必要であると考えられる。</p> <p>このような研究を行うことによって、生活習慣病の予防あるいはその前提となる生活習慣の変容に関する新しい提言ができるものと考えられる。</p>	